2025年度「特集」テーマ選定会議（第1回）　議事録案

2024.10.21　文責　橋本

日時：2024.10.21（月）13:00-14:00＠ZOOM

参加者（敬称略）：橋本（委員長），山口（副委員長），岡崎，四宮

欠席者：古賀，半田（オブザーバー），稲川（オブザーバー）

＜会議内容要約＞

最初に自己紹介を行い，その後本特集の概要とこれまでの経緯について委員長より説明を行った．

その後出席者がテーマに関する意見を述べ，議論の後に「分析化学への貢献が期待される基礎研究/分析化学を支える基礎研究」を第一候補とすることに決定した．この案について内容を検討し，次回のこの会議までに具体的なタイトル仮案とおよび執筆者案について提案することにした．もし，提案が集まらず特集号として成り立たない場合は2023年＃4の候補である「地域イノベーションに貢献する分析化学」を次点として検討する．

＜決定事項＞

【テーマ案選定の経緯】

昨年の選定時に残っていた候補「#1微粒子の分析化学」「#2分析化学とカーボンニュートラル」「＃4地域イノベーションに貢献する分析化学」「＃5安心・安全な日常生活を支える分析化学」に加え，四宮先生から新たに提案された「分析化学への貢献が期待される基礎研究/分析化学を支える基礎研究」を含む5案について議論を行った．（（村居前委員長がまとめた）1975年から2024年までの50年にわたる）過去の特集号一覧にはないこと，タイトルのとらえ方によっては色々な解釈ができる分，幅広い内容の特集号になりうるという点で，「分析化学への貢献が期待される基礎研究/分析化学を支える基礎研究」が面白いのでは，ということで，この案を第一候補とすることで出席者全員の意見がまとまった．一方で，具体的な執筆内容（タイトル及び執筆者）が集まらず特集号として成立できない点が危惧され，次回委員会までに具体的な内容を考えておくこと，また不成立の場合の第2候補として「地域イノベーションに貢献する分析化学」を採用することを決定した．

【テーマ案の内容】

＜四宮先生より（メール文面を一部改変）＞

まったく具体的はないのですが、例えば、「分析化学への貢献が期待される基礎研究」、「分析化学を支える基礎研究」…といったのはどうでしょうか？漠然としているでしょうか？もう少し絞ってもよいかもしれません。これまで出された応用やトピックス的なテーマもわかるのですが、近年、分析技術が頭打ちになっているので、一見関係なさそうでも編集委員から見て“どうも分析化学に繋がりそうだ”と思う「基礎研究」を集めてみては如何でしょうか（なかなか大変とは思いますが…）？記事があまり“難解な数式”や“宇宙人との会話”になるのは困りますが、そこは執筆者に平易に記載頂き、読者にとっての何かのヒント、きっかけになれればと思いました。

＜会議の中であった提案や説明＞

・「分析化学」に繋がりそうでまだ繋がっていないようなものを取り上げる．

・分析対象にならなさそうなもの，分析方法が確立されていない対象物に関する研究の紹介

※例：真菌，新規化合物，生理活性物質

・新しい物理現象/理論の紹介でも構わないが，数式など難解になりそう

・ベンチャー企業などから，今開発中の技術シーズを紹介してもらう．（企業からの投稿も増やしたい）

・解説/展望/講義でも分析法の説明はあるが，それらは既に確立されてある程度まとまっているものが多い．そうではなく，まだまとまっていない段階の（新しい？）手法について取り上げたい．

・超分子分析試薬などで，まだ実用化に至っていない検出原理（応答機構）も対象になるのではないか．

【スケジュールについて】

2024年10月21日　第1回特集号会議

2024年10月25日　「ぶんせき」第3回編集委員会にて経過を報告する

2024年11月初旬~中旬　第2回特集号会議

2025年12月（予定）　「ぶんせき」第４回編集委員会にて決定事項として報告する

2025年1-2月中に執筆者を選定し，内諾を取り付ける．2月中に執筆依頼が目標

2025年7月末脱稿（原稿全て）　脱稿後の手続きは小委員長（橋本）が行う．

2025年11月号　掲載　（全部の原稿まとめて）

【原稿の体裁について】

・刷り上がり3-4ページ（2023年11月号の例ですと2-6ページの幅あり：多かったのは3ページ）

※執筆要綱（2022年2月改訂）より：

【特集】 8000 字程度（図，表などを含む）〈ウェブシステム投稿，原稿テンプレート有，執筆者プロフィール＆写真要〉

内容：編集委員会の定めた特集テーマに沿って，その分野の最近の潮流について主に応用分野に重点を置いて述べたもの．

・原稿の本数は10本以上．（10-15本？）

・執筆者は日本分析化学会でなくともかまわない．ただし原稿料は期待できない点と，出来上がり記事のPDFファイルの扱い（著者に渡すことは可能であるが，公開/頒布はできない（あるいは別刷購入必要）について留意する必要がある．

【閲読について】

・原則として「ぶんせき」編集委員が行う．ただし，記事の専門性によっては編集委員以外の方が閲読することに差し支えはない．元編集委員の先生方にお願いするのも良いかと思われる．

【次回日程及びそれまでに行う内容】

★具体的なタイトル及び執筆者を挙げる：3つ以上，10個でもかまわない．執筆予定者への内諾は不要．内容はバラエティーに富んだ方が良いのであまり制限はしない．

★タイトルについて，より良い文言を検討する必要あり（すくなくともどちらかには決める）．

★次々回「ぶんせき」編集委員会（2025年12月予定）に先立って，2024年11月初旬~中旬にこの委員会をもう一度開催する．日程調整は別途行う．

以上